

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570101636
法人名	医療法人 岡田整形外科
事業所名	グループホーム一喜一喜
所在地	宮崎県宮崎市大字浮田3318番地 (電 話) 0985-30-4821

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成19年8月27日

【情報提供票より】(19年 7月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 6日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.25人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500~31,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有(50,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 90 歳	最低 79 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	徳田内科・福澤歯科・岡田整形外科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市中心部より西に位置し、田園風景が広がり、落ち着いた住宅環境、雰囲気の場所にホームはある。広い敷地の中に木造家屋一軒家が外観から家庭的なやさしさをかもし出していた。協力医療機関も極近いところに位置し、ホームとしてターミナルケアの実践、より認知症の方に特化したサービス提供のためにアセスメントもセンター方式に取り組むなど、積極的なホーム運営がみられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	分かりやすい理念の再作成、金銭管理の本人・家族の確認体制など、前回の指摘事項を真摯に受け止め、改善への取組が見られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義・目的について管理者を初め、全職員が理解しており、自己評価項目を全職員で取組み、日々の業務の振り返りとして活用されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、定期に開催され運営状況の報告や意見交換がなされている。行政・包括支援センター・民生委員の出席は確保されているが、地区の方や家族の参加について今後の取組に期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や来訪時に聞き取り等、行っているが、意見は少なく、家族の本音(意見)を今後どう積極的に出しているか、検討・取組を行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りなど地域の方の参加もあるが、ほぼ当ホームと同敷地にあるもう一つのグループホーム、認知症デイサービスの利用者とその家族で完結することが多い。地域の方を巻き込んでの地域密着としての今後の取組に期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回、調査で提案された理念の見直しを行い①ゆとりと尊厳②その人らしさ③職員の役割④家族・地域との連携を掲げている。分かりやすい言葉で理念が整理されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが理念を自分のものとして捉え、日々の実践に活かそうと取組まれている。管理者より、今後は「尊厳」とは何か等の具体的な内容について、職員の意志の共通化を図りたいと、今後の取組についての説明もあった。		「尊厳」という言葉一つでも各職員のイメージするところは違うかもしれない。言葉の持つ意味の共通意識化に今後取組まれるという姿勢が、非常に大事なことで、今後の取組に期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り等のイベント時のみ地域の方の参加もあるが、基本的には同敷地内のグループホームと認知症デイサービスとで行われている。	○	イベント時には地域の方への周知を行うなど、ホームが地域へ積極的に開かれるように、自治会への加入など含めて、今後の取組に期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、全職員が十分に理解し自己評価票の作成も全職員で取組むなど、積極的な姿勢が見られた。また全職員が日々の業務の振り返りとして活用しようとする意識があった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月に1回の定期開催を行っており、行政や包括支援センター、民生委員などの積極的な参加が行われ、ホームの運営状況報告や意見交換がされている。	○	推進会議メンバーに地区の方や家族、行政（警察や消防など）の参加が見られると、更により良い推進会議になるものと思われる。今後の取組に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、グループホーム連絡協議会の事務局を担い、市町村・行政との連携の機会も多く、市町村の意見も参考にしながらサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に近況の報告は欠かさずに行っている。また月1回はホーム便りを家族へ送付もし、ホームの状況について情報を発信している。金銭管理(預かり金)については、来訪時に家族へ説明し、納得の上、サインをもらうなど間違えの無い管理をされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の来訪時に声かけし意見を求めているが、意見が少ない状況である。		家族からの意見(本音)を出させやすくする工夫を今後、更にお願したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新職員が利用者に理解を得られるまで引継ぎを丁寧にし、利用者のダメージを最小限にするような工夫がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修ともに年度計画がきちんと作成され、実践されている。また新職員については独自の教育プログラムを作成し、入職後10日、20日、1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月と評価する教育システムが実践されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会主催の勉強会(年3~4回)への職員の出席。同法人グループホームとの合同勉強会(月1回)など取組まれており、同法人のグループホームとは職員の交流も図られていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に情報の検討を全職員で十分に行い、入居後に不安が最小限になるようなケアの取り組みがなされている。		サービス利用に不安な場合など、馴染みの人に来てもらい安心感を持ってもらったり、数回、食事を共にしたり午前中のみ共に過ごしたり、利用前に訪問するなど、創意工夫し取組まれることに期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として捉え、料理方法を習ったりなど、共に支えあう関係構築がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の実践に取りかかり、本人の希望や意向の把握を積極的にしていこうという姿勢がみられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	区分変更時、更新時等に家族の参加が少なく、電話等で意向や希望を把握し活かした計画作りがなされている。		家族と職員が課題とケアのあり方について、話をすることが貴重な時間の共有となるものと思われるので、何とか家族の参加協力が得られるよう努力に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月)に見直しを行っている。現状、状態の変化や要介護度変更時等は随時に介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急的に短期の利用を以前受け入れたり、地域の中の多機能性を活かした取組を意識し取組んでいる。		認知症の広報や地域の方からの相談を受けるなど、認知症に対する理解が得られるような取り組みにも期待したいし、地域・利用者・家族の要望に応じた機能の展開に期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回は、かかりつけ医の診察が行われ適切な医療提供がなされている。医療機関・訪問看護と密接な連携体制をとり、積極的なターミナルケアの実践も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族と終末期についての相談・検討を行い、希望があればターミナルまで対応している。現在、1名の方に訪問看護師と連携しターミナルケアを提供している。職員全員で終末期ケアについての検討や訪問看護師による勉強会など、積極的に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの配慮は職員も強く意識しており、損ねるような言動は見られない。居室に入る場合は必ずノックして入るなど配慮が見られている。個人情報の保護についても同意の範囲内で適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中で、出来る限り利用者に寄り添える時間を確保し、一人ひとりのペースを大事にするよう、職員が常に意識し臨機応変な対応を心がけて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝うことが好きな利用者は調理や配膳、片付けの手伝いも行っている。食事は利用者と共に職員が見守りを行いながら摂っている。落ち着いた雰囲気、食事の時間が提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と午後に本人の希望を聞き、入浴を行っており、夕方・夜も希望があれば対応するという取組がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯、食事の準備、片付けなど自然と役割がきまり、利用者が行われていた。また短歌作り(月1回)、音楽療法(月1回)、利用者が先生となったお茶会(週1回)を開催するなどの活動に取り組まれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等の希望があれば、出来る限り添えるように職員を確保し外出の機会を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵、門扉の鍵とも掛けておらず、自由な出入りとなっており、開放感がある。鍵を掛ける弊害も職員はきちんと理解し対応がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各災害や救急時等のマニュアルが整備され、連絡の方法などマニュアルとしてきちんと示されていた。避難訓練も定期で実施し取組まれている。		訓練の際に近所の方や地区の方、消防署の方に来ていただき参加してもらおうと、より良い取組となると思う。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、必要な方には職員が見守り・介助しながら偏食の無いように声かけ等行っている。摂取量・水分摂取量もきちんと把握し、体調の管理がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、最低限の掲示物しかなくシンプルで落ち着いた雰囲気となっている。音楽も食事時、やわらかな音楽が静かに流れており、大人の空間が心地よく感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学をさせて頂いた居室には、馴染みのものが少なく殺風景な感じであるが(要介護度が高い方)、以外の方の居室には小さな仏壇を持ち込むなど、馴染みのものの配慮がなされている。湯飲みや茶碗なども馴染みの持込品である。		